㊽ＮＰＯ法人「自然栽培そらみずち」（智頭町）

地域のミライをみんなでつくろう！
ミラ・クル・とっとり運動

持続可能な食と農の継承目指す

自然界の循環を手本に、農薬や化学肥料、動物性堆肥を使わない自然栽培の農業を実践し、普及に努める。メンバーが緩やかにつながり、環境保全にも取り組む。持続可能な食と農がある暮らしの次世代への継承を目指している。

２０１６年に前身組織である「自然栽培塾そらみずち」を結成し、21年にＮＰＯ法人に移行した。農業者のほか、自然栽培に意欲がある人、食の安全を重視する消費者も参加している。

座談会を月1回開いて情報を交換。「自然に近い状態で農業を行う」という以外に取り決めはなく、効果的と思われる栽培方法を互いに取り入れている。メンバーが作る農産物の販売支援も行う。

事務局長を務める岩田和明さん(50)は「稲や野菜も植物。環境を整えれば、農薬や化学肥料を与えなくても作物として育つ」と話す。

豊かな農地を守るため、水源地となる山の環境保全にも取り組む。放置林となっていた営林署の苗畑として使われていた土地（約4㌶）では、整備のため馬を放牧し、広葉樹の植樹を進める。一角には森林空間を活用したツリーハウスやブランコを設け、子どものための「プレーパーク」を毎月開く。

それぞれの取り組みには時間も労力もかかるが、岩田さんは「こういう考えがあることを示すためのメッセージとしての活動」を実践しているという。

◇とっとり県民活動活性化センターでは、ミラ・クルとっとりプラットフォーム交流会「地域資源を活かした地域づくりを考える」（18日午後2時～）の参加者を募集中。詳細はＱＲコードから。



環境保全活動で切り出した竹で竹炭をつくるメンバーたち

（C）新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます